
無機化学

目次

第I部	非金属元素	6
1	水素	6
1.1	性質	6
1.2	同位体	6
1.3	製法	6
1.4	反応	6
2	貴ガス	6
2.1	性質	6
2.2	生成	6
2.3	ヘリウム	6
2.4	ネオン	6
2.5	アルゴン	6
3	ハロゲン	7
3.1	単体	7
3.1.1	性質	7
3.1.2	製法	7
3.1.3	反応	7
3.1.4	塩素発生実験の装置	8
3.1.5	塩素のオキソ酸	8
3.2	ハロゲン化水素	8
3.2.1	性質	8
3.2.2	製法	8
3.2.3	反応	8
3.3	ハロゲン化銀	9
3.3.1	性質	9
3.3.2	製法	9
3.4	次亜塩素酸塩	9
3.4.1	性質	9
3.4.2	製法	9
3.5	水素酸カリウム	9
3.5.1	性質	9
4	酸素	10
4.1	酸素原子	10
4.2	酸素	10
4.2.1	性質	10
4.2.2	製法	10
4.2.3	反応	10
4.3	オゾン	10
4.3.1	性質	10
4.3.2	製法	10
4.3.3	反応	10

4.4	酸化物	11
4.4.1	反応	11
4.5	水	11
4.5.1	性質	11
4.5.2	反応	11
5	硫黄	12
5.1	硫黄	12
5.1.1	性質	12
5.1.2	反応	12
5.2	硫化水素	12
5.2.1	性質	12
5.2.2	製法	12
5.2.3	反応	12
5.3	二酸化硫黄（亜硫酸ガス）	12
5.3.1	性質	12
5.3.2	製法	12
5.3.3	反応	12
5.4	硫酸	13
5.4.1	性質	13
5.4.2	製法	13
5.4.3	反応	13
5.5	チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）	13
5.5.1	性質	13
5.5.2	製法	13
5.5.3	反応	13
5.6	重金属の硫化物	14
6	窒素	14
6.1	窒素	14
6.1.1	性質	14
6.1.2	製法	14
6.1.3	反応	14
6.2	アンモニア	14
6.2.1	性質	14
6.2.2	製法	14
6.2.3	反応	14
6.3	一酸化二窒素（笑気ガス）	14
6.3.1	性質	14
6.3.2	製法	14
6.4	一酸化窒素	14
6.4.1	性質	14
6.4.2	製法	15
6.4.3	反応	15
6.5	二酸化窒素	15

6.5.1	性質	15
6.5.2	製法	15
6.6	硝酸	15
6.6.1	性質	15
6.6.2	製法	15
6.6.3	反応	15
7	リン	16
7.1	リン	16
7.1.1	性質	16
7.1.2	製法	16
7.2	十酸化四リン	16
7.2.1	性質	16
7.2.2	製法	16
7.2.3	反応	16
7.3	リン酸	16
7.3.1	性質	16
7.3.2	反応	16
8	炭素	17
8.1	炭素	17
8.1.1	性質	17
8.2	一酸化炭素	17
8.2.1	性質	17
8.2.2	製法	17
8.2.3	反応	17
8.3	二酸化炭素	17
9	ケイ素	17
9.1	二酸化ケイ素	17
第 II 部	典型金属	18
10	アルカリ金属	18
10.1	単体	18
10.1.1	性質	18
10.1.2	製法	18
10.1.3	反応	18
10.2	水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）	18
10.2.1	性質	18
10.2.2	製法	19
10.2.3	反応	19
10.3	炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム	19
10.3.1	性質	19
10.3.2	製法	20
10.3.3	反応	20
11	2 族元素	20
11.1	単体	20

目次	目次
11.1.1	性質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
11.1.2	製法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
11.1.3	反応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第 III 部	APPENDIX・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
12	気体の乾燥剤・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

第Ⅰ部 非金属元素

1 水素

1.1 性質

- ①無色 ②無臭の ③気体
- 最も ④軽い
- 水に溶け ⑤にくい

1.2 同位体

^1H 99%以上 ^2H (⑥D) 0.015% ^3H (⑦T) 微量

1.3 製法

- ナフサの電気分解 [工業的製法](#)
- ⑧赤熱したコークスに ⑨水蒸気を吹き付ける
[工業的製法](#)
 $\text{C} + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{H}_2 + \text{CO}$
- ⑩水 (⑪水酸化ナトリウム水溶液) の電気分解
 $2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$
- ⑫イオン化傾向が ⑬ H_2 より大きい金属と希薄強酸
[例](#) $\text{Fe} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{FeCl}_2 + \text{H}_2 \uparrow$
[例](#) $\text{Zn} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{ZnCl}_2 + \text{H}_2 \uparrow$
- 水酸化ナトリウムと水
 $\text{NaH} + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{NaOH} + \text{H}_2$

1.4 反応

- 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)
 $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{H}_2\text{O}$
- 加熱した酸化銅 (Ⅱ) と水素
 $\text{CuO} + \text{H}_2 \longrightarrow \text{Cu} + \text{H}_2\text{O}$

2 貴ガス

⑭He, ⑮Ne, ⑯Ar, ⑰Kr, Xe, Rn

2.1 性質

- ⑱無色 ⑲無臭
- 第18族元素であり、電子配置がオクテットを満たすため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が ⑳極めて小さい
- 電気陰性度が ㉑定義されない

2.2 生成

^{40}K の電子捕獲
 $^{40}\text{K} + \text{e}^- \longrightarrow ^{40}\text{Ar}$

2.3 ヘリウム

化学式：He 浮揚ガス

2.4 ネオン

化学式：Ne ネオンサイン

2.5 アルゴン

化学式：Ar N_2 , O_2 に次いで3番目に空気中での存在量が多い (約1%)。

3 ハロゲン

3.1 単体

3.1.1 性質

化学式	F ₂	Cl ₂	Br ₂	I ₂
分子量	小			大
分子間力	弱			強
反応性	強			弱
沸点・融点	低			高
常温での状態	[22]気体	[23]気体	[24]液体	[25]固体
色	[26]淡黄色	[27]黄緑色	[28]赤褐色	[29]黒紫色
特徴	[30]特異臭	[31]刺激臭	揮発性	[32]昇華性
H ₂ との反応	[33]冷暗所でも爆発的に反応	[34]常温でも [35]光で爆発的に反応	[36]加熱して [37]触媒により反応	高温で平衡状態 [38]加熱して [39]触媒により一部反応
水との反応	水を酸化して酸素と [40]激しく反応	[41]一部とけて反応	[42]一部とけて反応	[43]反応しない [44]KIaq には可溶
用途	保存が困難 Kr や Xe と反応	[45]ClO ⁻ による [46]殺菌・漂白作用	C=C や C≡C の検出	[47]ヨウ素デンプン反応で [48]青紫色

3.1.2 製法

- フッ化水素ナトリウム KHF₂ のフッ化水素 HF 溶液の電気分解 工業的製法

$$\text{KHF}_2 \longrightarrow \text{KF} + \text{HF}$$
- [49]塩化ナトリウム の電気分解 塩素 工業的製法

$$2\text{NaCl} + 2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{Cl}_2 + \text{H}_2 + 2\text{NaOH}$$
- [50]酸化マンガン (IV) に [51]濃硫酸 を加えて加熱 塩素

$$\text{MnO}_2 + 4\text{HCl} \xrightarrow{\Delta} \text{MnCl}_2 + \text{Cl}_2 \uparrow + 2\text{H}_2\text{O}$$
- [52]高度さらし粉 と [53]塩酸 塩素

$$\text{Ca}(\text{ClO})_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O} + 4\text{HCl} \longrightarrow \text{CaCl}_2 + 2\text{Cl}_2 \uparrow + 4\text{H}_2\text{O}$$
- [54]さらし粉 と [55]塩酸 塩素

$$\text{CaCl}(\text{ClO}) \cdot \text{H}_2\text{O} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{CaCl}_2 + \text{Cl}_2 \uparrow + 2\text{H}_2\text{O}$$
- 臭化マグネシウムと塩素 臭素

$$\text{MgBr}_2 + \text{Cl}_2 \longrightarrow \text{MgCl}_2 + \text{Br}_2$$
- ヨウ化カリウムと塩素 ヨウ素

$$2\text{KI} + \text{Cl}_2 \longrightarrow 2\text{KCl} + \text{I}_2$$

3.1.3 反応

- フッ素と水素

$$\text{H}_2 + \text{F}_2 \xrightarrow{\text{常温で爆発的に反応}} 2\text{HF}$$
- 塩素と水素

$$\text{H}_2 + \text{Cl}_2 \xrightarrow{\text{光を当てると爆発的に反応}} 2\text{HCl}$$
- 臭素と水素

$$\text{H}_2 + \text{Br}_2 \xrightarrow{\text{高温で反応}} 2\text{HBr}$$
- ヨウ素と水素

$$\text{H}_2 + \text{I}_2 \xrightleftharpoons{\text{高温で平衡}} 2\text{HI}$$
- フッ素と水

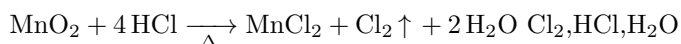
$$2\text{F}_2 + 2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow 4\text{HF} + \text{O}_2$$
- 塩素と水

$$\text{Cl}_2 + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{HCl} + \text{HClO}$$
- 臭素と水

$$\text{Br}_2 + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{HBr} + \text{HBrO}$$
- ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物イオンを形成して溶解する反応

$$\text{I}_2 + \text{I}^- \longrightarrow \text{I}_3^-$$

3.1.4 塩素発生実験の装置



↓ [56] 水 に通す (HCl の除去)

Cl₂, H₂O

↓ [57] 濃硫酸 に通す (H₂O の除去)

Cl₂

3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸… [58] 酸素を含む酸性物質

+VII	[59] <u>HClO₄</u>	[60] <u>過塩素酸</u>	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{H}-\text{O}-\text{Cl}-\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$
+V	[61] <u>HClO₃</u>	[62] <u>塩素酸</u>	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{H}-\text{O}-\text{Cl}-\text{O} \end{array}$
+III	[63] <u>HClO₂</u>	[64] <u>亜塩素酸</u>	$\text{H}-\text{O}-\text{Cl}-\text{O}$
+I	[65] <u>HClO</u>	[66] <u>次亜塩素酸</u>	$\text{H}-\text{O}-\text{Cl}$

3.2 ハロゲン化水素

3.2.1 性質

化学式	HF	HCl	HBr	HI
色・臭い	[67] <u>無色</u> [68] <u>刺激臭</u>			
沸点	20°C	-85°C	-67°C	-35°C
水との反応	[69] <u>よく溶ける</u>			
水溶液 (強弱)	[70] <u>フッ化水素酸</u> [71] <u>塩酸</u> [72] <u>臭化水素酸</u> [73] <u>ヨウ化水素酸</u> [74] <u>弱酸</u> << [75] <u>強酸</u> < [76] <u>強酸</u> < [77] <u>強酸</u>			
用途	[78] <u>ガラス</u> と反応 ⇒ ポリエチレン瓶	[79] <u>アンモニア</u> の検出 各種工業	半導体加工	インジウムスズ 酸化物の加工

3.2.2 製法

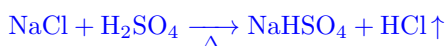
- [80] ホタル石 に [81] 濃硫酸 を加えて加熱 ([82] 弱酸遊離) フッ化水素



- [83] 水素 と [84] 塩素 塩化水素 工業的製法



- [85] 塩化ナトリウム に [86] 濃硫酸 に加えて加熱 塩化水素 ([87] 弱酸 ・ [88] 揮発性酸 の追い出し)



3.2.3 反応

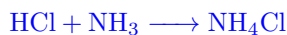
- 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応



- フッ化水素酸 (水溶液) がガラスを侵食する反応



- (89)塩化水素 による (90)アンモニア の検出



3.3 ハロゲン化銀

3.3.1 性質

化学式	AgF	AgCl	AgBr	AgI
固体の色	<u>(91)黄褐</u> 色	<u>(92)白</u> 色	<u>(93)淡黄</u> 色	<u>(94)黄</u> 色
水との反応	<u>(95)よく溶ける</u>	<u>(96)ほとんど溶けない</u>		
光との反応	<u>(97)感光</u>	感光性 (→ <u>(98)Ag</u>)		

3.3.2 製法

- 酸化銀 (I) にフッ化水素酸を加えて蒸発圧縮



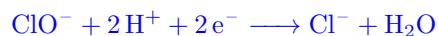
- ハロゲン化水素イオンを含む水溶液と (99)硝酸銀水溶液



3.4 次亜塩素酸塩

3.4.1 性質

(100)酸化 剤として反応 ((101)殺菌 ・ (102)漂白 作用)



3.4.2 製法

- 水酸化ナトリウム水溶液と塩素



- 水酸化カルシウムと塩素

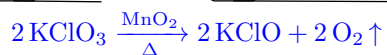


3.5 水素酸カリウム

化学式: (103)KClO₃

3.5.1 性質

(104)酸素 の生成 ((105)二酸化マンガン を触媒に加熱)



4 酸素

4.1 酸素原子

同 [106]位 体：酸素 (O_2), [107]オゾン (O_3)

地球の地殻に [108]最も多く 存在

地球の地殻における元素の存在率

<u>[109]O</u>	>	<u>[110]Si</u>	>	<u>[111]Al</u>	>	<u>[112]Fe</u>	>	<u>[113]Ca</u>	>	<u>[114]Na</u>
<u>[115]酸素</u>		<u>[116]ケイ素</u>		<u>[117]アルミニウム</u>		<u>[118]鉄</u>		<u>[119]カルシウム</u>		<u>[120]ナトリウム</u>
46.6%		27.7%		8.13%		5.00%		3.63%		2.83%
おっ		し		やる		て		か		な

4.2 酸素

化学式： O_2

4.2.1 性質

- [121]無 色 [122]無 臭の [123]気体
- 沸点 -183°C

4.2.2 製法

- [124]液体空気分留 [工業的製法]
- [125]水 ([126]水酸化ナトリウム水溶液) の [127]電気分解

$$2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2\text{H}_2\uparrow + \text{O}_2\uparrow$$
- [128]過酸化水素水 ([129]オキシドール) の分解

$$2\text{H}_2\text{O}_2 \xrightarrow{\text{MnO}_2} \text{O}_2\uparrow + 2\text{H}_2\text{O}$$
- [130]塩素酸カリウム の熱分解

$$2\text{KClO}_3 \xrightarrow[\Delta]{\text{MnO}_2} 2\text{KClO} + 3\text{O}_2\uparrow$$

4.2.3 反応

[131]酸化 剤としての反応



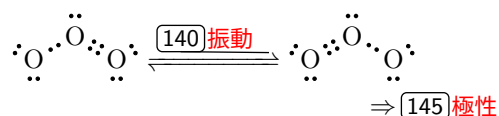
4.3 オゾン

化学式：[132]O₃

4.3.1 性質

- [133]ニンニク 臭 ([134]特異 臭) を持つ [135]淡青 色の [136]気体 (常温)
- 水に [137]少し溶ける
- [138]殺菌 ・ [139]脱臭 作用

オゾンにおける酸素原子の運動



4.3.2 製法

酸素中で [146]無声放電 / 強い [147]紫外線 を当てる



4.3.3 反応

- [148]酸化 剤としての反応

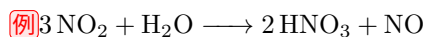
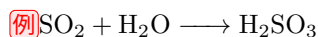
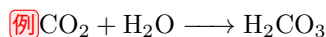
$$\text{O}_3 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \longrightarrow \text{O}_2 + \text{H}_2\text{O}$$
- 湿らせた [149]ヨウ化カリウムでんぷん紙 を [150]青 色に変色

$$\text{O}_3 + 2\text{KI} + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{I}_2 + \text{O}_2 + 2\text{KOH}$$

4.4 酸化物

	塩基性酸化物	両性酸化物	酸性酸化物
元素	<u>[151]陽性の大きい金属</u> 元素	<u>[152]陽性の小さい金属</u> 元素	<u>[153]非金属</u> 元素
水との反応	<u>[154]塩基性</u>	<u>[155]ほとんど溶けない</u>	<u>[156]酸性</u> (<u>[157]オキソ酸</u>)
中和	<u>[158]酸</u> と反応	<u>[159]酸・塩基</u> と反応	<u>[160]塩基</u> と反応

両性酸化物 … [161]アルミニウム ([162]Al) , [163]亜鉛 ([164]Zn) , [165]スズ ([166]Sn) , [167]鉛 ([168]Pb)¹⁾



4.4.1 反応

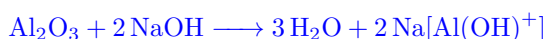
- 酸化銅（Ⅱ）と塩化水素



- 酸化アルミニウムと硫酸



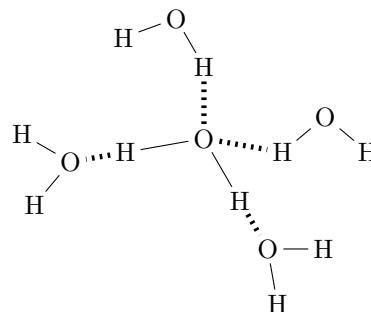
- 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液



4.5 水

4.5.1 性質

- [169]極性 分子
- 周りの4つの分子と [170]水素 結合
- 異常に [171]高い 沸点
- [172]隙間の多い 結晶構造（密度：固体 [173]< 液体）
- 特異な [174]融解曲線

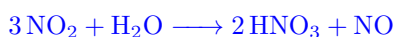


4.5.2 反応

- 酸化カルシウムと水



- 二酸化窒素と水

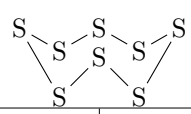


1) 覚え方：ああすんなり

5 硫黄

5.1 硫黄

5.1.1 性質

名称	(175)斜方 硫黄	(176)単斜 硫黄	(177)ゴム状 硫黄
化学式	(178)S ₈	(179)S ₈	(180)S
色	(181)黄 色	(182)黄 色	(183)黄 色
構造	(184)塊状 結晶	(185)針状 結晶	(186)不定形 固体
融点	113°C	119°C	不定
構造			
CS ₂ との反応	(187)溶ける	(188)溶ける	(189)溶けない

CS₂… 無色・芳香性・揮発性 ⇒ (190)無極性 触媒

5.1.2 反応

- 高温で多くの金属 (Au、Pt を除く) との反応



- 空气中で (191)青 色の炎を上げて燃焼



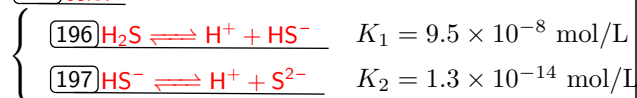
5.2 硫化水素

化学式: (192)H₂S

5.2.1 性質

- (193)無 色 (194)腐卵 臭

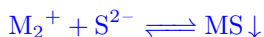
- (195)弱酸 性



- (198)還元 剤としての反応



- 重金属イオン M₂⁺ と (199)難容性の塩 を生成



5.2.2 製法

- 酸化鉄 (II) と希塩酸



- 酸化鉄 (II) と希硫酸



5.2.3 反応

- 硫化水素とヨウ素



- 酢酸鉛 (II) 水溶液と硫化水素 ((200)H₂S の検出)



5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス)

(201)SO₂ 電子式:



5.3.1 性質

- (202)無 色、(203)刺激 臭の (204)気体

- (205)溶けやすい

- (206)弱酸 性



- (208)還元 剤 ((209)漂白 作用)



- (210)酸化 剤 ((211)H₂S などの強い還元剤に対して)

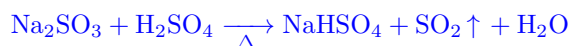


5.3.2 製法

- 硫黄や硫化物の (212)燃焼 (工業的製法)



- (213)亜硫酸ナトリウム と希硫酸



- (214)銅 と (215)熱濃硫酸



5.3.3 反応

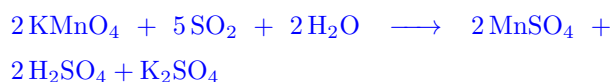
- 二酸化硫黄の水への溶解



- 二酸化硫黄と硫化水素



- 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄



5.4 硫酸

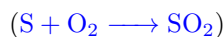
5.4.1 性質

- [216]無 色 [217]無 臭の [218]液体
- 水に [219]非常によく溶ける
- 溶解熱が [220]非常に大きい
- [221]水に濃硫酸 を加えて希釈
- [222]不揮発 性で密度が [223]大きく、[224]粘度 が大きい [濃硫酸]
- [225]吸湿 性・[226]脱水 作用 [濃硫酸]
- [227]強酸性 [希硫酸]
- ([228] $\text{H}_2\text{SO}_4 \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{HSO}_4^-$ $K_1 > 10^8 \text{ mol/L}$)
- [229]弱酸性 [濃硫酸] ([230]水が少なく、[231] H_3O^+ の濃度が小さい)
- [232]酸化 剤として働く [熱濃硫酸]
- [233] $\text{H}_2\text{SO}_4 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \longrightarrow \text{SO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$
- [234]アルカリ性土類金属 ([235]Ca、[236]Be)、[237]Pb と難溶性の塩を生成 [希硫酸]

5.4.2 製法

[238]接触 法 [工業的製法]

1. 黄鉄鉱 FeS_2 の燃焼



2. [239]酸化バナジウム 触媒で酸化



3. [240]濃硫酸 に吸収させて [241]発煙硫酸 とした後、希硫酸を加えて希釈

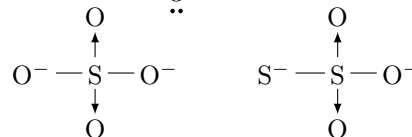
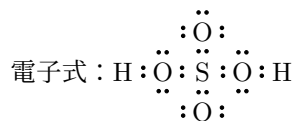


5.4.3 反応

- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱
- スクロースと濃硫酸
- 水酸化ナトリウムと希硫酸
- 銀と熱濃硫酸
- 塩化バリウム水溶液と希硫酸

5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)

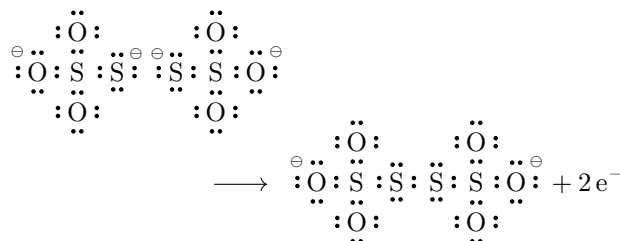
化学式: [242] $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3$



[243]硫酸 イオン [244]チオ硫酸 イオン

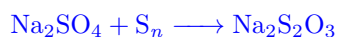
5.5.1 性質

- 無色透明の結晶 (5 水和物) で、水に溶けやすい。
- [245]還元 剤として反応
- [例]水道水の脱塩素剤 (カルキ抜き)



5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱



5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム



5.6 重金属の硫化物

酸性でも沈澱（全液性で沈澱）						中性・塩基性で沈澱（酸性では溶解）			
Ag ₂ S	HgS	CuS	PbS	SnS	CdS	NiS	FeS	ZnS	MnS
(247)黒色	(248)黒色	(249)黒色	(250)黒色	(251)褐色	(252)黒色	(253)黒色	(254)黒色	(255)白色	(256)淡赤色
(257)低い						(258)高い			
(259)極小						(260)小			

6 窒素

6.1 窒素

化学式：N₂

6.1.1 性質

- (261)無色 (262)無臭の (263)気体
- 空気の 78% を占める
- 水に溶け (264)にくい（(265)無極性分子）
- 常温で (266)不活性（食品などの (267)酸化防止）
- 高エネルギー状態（(268)高温・(269)放電）では反応

6.1.2 製法

- (270)液体窒素の分留 [工業的製法](#)
- (271)亜硝酸アンモニウム の (272)熱分解

$$\text{NH}_4\text{NO}_2 \xrightarrow{\Delta} \text{N}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$$

6.1.3 反応

- 窒素と酸素

$$\text{N}_2 + 2\text{O}_2 \longrightarrow 2\text{NO}_2 \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{N}_2 + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{NO} \\ 2\text{NO} + \text{O}_2 \longrightarrow 2\text{NO}_2 \end{array} \right.$$
- 窒素とマグネシウム

$$3\text{Mg} + \text{N}_2 \longrightarrow \text{Mg}_3\text{N}_2$$

6.2 アンモニア

化学式：(273)NH₃

6.2.1 性質

- (274)無色 (275)刺激臭の (276)気体
- (277)水素結合
- 水に (278)非常によく溶ける（(279)上方置換）
- (280)塩基性

$$\left(\begin{array}{l} (281)\text{NH}_3 + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{NH}_4^+ + \text{OH}^- \\ K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L} \end{array} \right)$$
- (282)塩素の検出
- 高温・高压で二酸化炭素と反応して、(283)尿素を生成

6.2.2 製法

- (284)ハーバーボッシュ法 [工業的製法](#)
(285)低温 (286)高压 で、(287)四酸化三鉄（(288)Fe₃O₄）触媒

$$\text{N}_2 + 3\text{H}_2 \rightleftharpoons 2\text{NH}_3$$
- (289)塩化アンモニウム と (290)水酸化カルシウム を混ぜて加熱

$$2\text{NH}_4\text{Cl} + \text{Ca}(\text{OH})_2 \longrightarrow 2\text{NH}_3 \uparrow + \text{CaCl}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$$

6.2.3 反応

- 硫酸とアンモニア

$$2\text{NH}_3 + \text{H}_2\text{SO}_4 \longrightarrow (\text{NH}_4)_2\text{SO}_4$$
- 塩素の検出

$$\text{NH}_3 + \text{HCl} \longrightarrow \text{NH}_4\text{Cl} \downarrow$$
- アンモニアと二酸化炭素

$$2\text{NH}_3 + \text{CO}_2 \longrightarrow (\text{NH}_2)_2\text{CO} + \text{H}_2\text{O}$$

6.3 一酸化二窒素（笑気ガス）

化学式：(291)N₂O

6.3.1 性質

- 無色、少し甘味のある気体
- 水に少し溶ける
- 常温では反応性が低い
- (292)麻酔効果

6.3.2 製法

- (293)硝酸アンモニウム の熱分解

$$\text{NH}_4\text{NO}_2 \xrightarrow{\Delta} \text{N}_2\text{O} + 2\text{H}_2\text{O}$$

6.4 一酸化窒素

化学式：(294)NO

6.4.1 性質

- (295)無色 (296)無臭の (297)気体
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では (298)酸素 とすぐに反応

- 血管拡張作用・神経伝達物質

6.4.2 製法

[299]銅 と [300]希硝酸



6.4.3 反応

酸素と反応



6.5 二酸化窒素

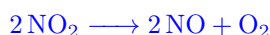
化学式：[301]NO₂

6.5.1 性質

- [302]赤褐 色 [303]刺激 臭の [304]気体
- 水と反応して [305]強酸 性 ([306]酸性雨 の原因)
- 常 温 で は [307]四酸化二窒素 ([308]無 色) と [309]平衡状態



- 140°C 以上で熱分解



6.5.2 製法

[310]銅 と [311]濃硝酸



6.6 硝酸

化学式：[312]HNO₃

6.6.1 性質

- [313]無 色 [314]刺激 臭で [315]揮発 性の [316]液体
- 水に [317]よく溶ける
- [318]強酸 性

$$\left(\text{[319]HNO}_3 \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{NO}_3^- \quad K_1 = 6.3 \times 10^1 \text{mol/L} \right)$$
- [320]褐色瓶 に保存 ([321]光分解)
- [322]酸化 剤としての反応 [希硝酸]

$$\text{HNO}_3 + \text{H}^+ + \text{e}^- \longrightarrow \text{NO}_2 + \text{H}_2\text{O}$$
- [323]酸化 剤としての反応 [濃硝酸]

$$\text{HNO}_3 + 3\text{H}^+ + 3\text{e}^- \longrightarrow \text{NO} + 2\text{H}_2\text{O}$$
- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- [324]Al , [325]Cr , [326]Fe , [327]Co , [328]Ni は [329]酸化皮膜 が生じて不溶 [濃硝酸]
 = [330]不動態

- [331]王水 ([332]濃塩酸 :1[333]濃硝酸 =3:1)は、Pt,Au も溶解

- NO₃⁻ は [334]沈殿を作らない ⇒ [335]褐輪反応 で検出

6.6.2 製法

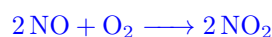
- [336]オストワルト法



1. [337]白金 触媒で [338]アンモニア を [339]酸化



2. [340]空気酸化



3. [341]水 と反応

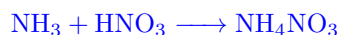


- [342]硝酸塩 に [343]濃硫酸 を加えて加熱



6.6.3 反応

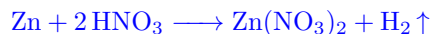
- アンモニアと硝酸



- 硝酸の光分解



- 亜鉛と希硝酸



- 銀と濃硝酸



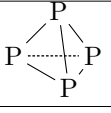
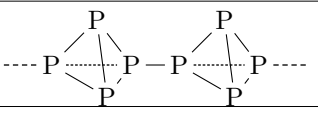
7 リン

7.1 リン

化学式： (344)P₄O₁₀

7.1.1 性質

三種類の同 (345)素 体がある

名称	<u>(346)黄</u> リン	<u>(347)赤</u> リン	黒リン
化学式	<u>(348)P₄</u>	<u>(349)P_x</u>	P ₄
融点	44°C	590°C ²⁾	610°C
発火点	35°C <u>(350)水中</u> に保存	260°C <u>(351)マッチの側薬</u>	-
密度	1.8g/cm ³	2.16g/cm ³	2.7g/cm ³
毒性	<u>(352)猛毒</u>	<u>(353)微毒</u>	<u>(354)微毒</u>
構造			略
CS ₂ への溶解	<u>(355)溶ける</u>	<u>(356)溶けない</u>	<u>(357)溶けない</u>

7.1.2 製法

- リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 (黄リン) (工業的製法)
- 空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 (赤リン)
- 空気を遮断して黄リンを 200°C、 1.2×10^9 Pa で加熱 (黒リン)

7.2 十酸化四リン

化学式： (358)P₄O₁₀

7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- (359)潮解性 (水との親和性が (360)非常に高い)
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応 ((361)加水分解)

7.2.2 製法

(362)リンの燃焼

7.2.3 反応

水を加えて加熱

7.3 リン酸

化学式： (363)H₃PO₄

7.3.1 性質

(364)中酸性

$$\left(\text{(365)H}_3\text{PO}_4 \rightleftharpoons \text{H}^+ + \text{H}_2\text{PO}_4^- \quad K_1 = 7.5 \times 10^{-3} \text{ mol/L} \right)$$

7.3.2 反応

- リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石灰が生成
- リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が生成

8 炭素

8.1 炭素

8.1.1 性質

炭素の同(366)素 体は、(367)ダイヤモンド、(368)黒鉛、(369)グラファイト etc...

名称	(370)ダイヤモンド	(371)黒鉛
特徴	(372)無 色 (373)透明 で屈折率が高い固体	(374)黒 色で (375)光沢 がある固体
密度	3.5g/cm ³	2.3g/cm ³
構造	(376)正四面体 方向の (377)共有結合 結晶	(378)ズレた層状 構造
電気伝導性	(379)なし	(380)あり
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極

8.2 一酸化炭素

化学式：(381)CO

8.2.1 性質

- (382)無 色 (383)無 臭で (384)有毒 な気体
- 赤血球のヘモグロビンの (385)Fe²⁺ に対して強い (386)酸化結合
- (387)中 性で水に溶け (388)にくい。(389)水上 置換)
- (390)可燃 性、高温で (391)還元 性 ((392)鉄 との親和性が非常に高い)

8.2.2 製法

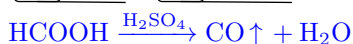
- (393)赤熱したコークス に (394)水蒸気 を吹き付ける (工業的製法)



- 炭素の (395)不完全燃焼



- (396)ギ酸 に (397)濃硫酸 を加えて加熱

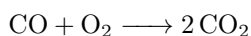


- (398)シュウ酸 に (399)濃硫酸 を加えて加熱

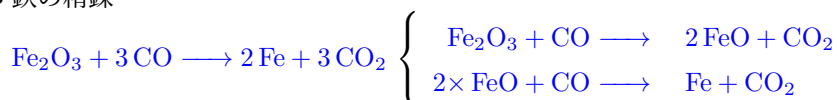


8.2.3 反応

- 燃焼



- 鉄の精錬



8.3 二酸化炭素

9 ケイ素

9.1 二酸化ケイ素

第 II 部 典型金属

10 アルカリ金属

10.1 単体

10.1.1 性質

- 銀白色で(400)柔らかい 金属
- 全体的に反応性が高く、(401)灯油 中に保存
- 原子一個粗利の自由電子が(402)1 個 ((403)弱い(404)金属 結合)
- 還元剤として反応

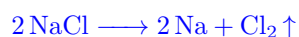


化学式	Li	Na	K	Rb	Cs
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87
構造	(405)体心立方 格子 ((406)軽金属)				
イオン化エネルギー	大 小				
反応力	小 大				
炎色反応	(407)赤 色	(408)黄 色	(409)赤紫 色	(410)深赤 色	(411)青紫 色
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料 (K ⁺)	光電池 年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)

10.1.2 製法

水酸化物や塩化物の(412)溶融塩電解 ((413)ダウンス 法) (工業的製法)

(414)CaCl₂ 添加 ((415)凝固点降下)



10.1.3 反応

- ナトリウムと酸素



- ナトリウムと塩素



- ナトリウムと水



10.2 水酸化ナトリウム (苛性ソーダ)

化学式: (416)NaOH

10.2.1 性質

- (417)白 色の固体

- (418)潮解 性
- 水によくとける（水との親和性が(419)非常に高い）
- (420)乾燥 剤
- 強塩基性

$$\left((421)\text{NaOH} \rightleftharpoons \text{Na}^+ + \text{OH}^- \quad K_1 = 1.0 \times 10^{-1} \text{mol/L} \right)$$
- 空気中の(422)二酸化炭素と反応して、純度が不明
 酸の標準溶液（(423)シュウ酸）を用いた中和滴定で濃度決定

$$\left((\text{COOH})_2 + 2 \text{NaOH} \longrightarrow (\text{COONa})_2 + 2 \text{H}_2\text{O} \right)$$

10.2.2 製法

(424)水酸化ナトリウム水溶液 の (425)電気分解（イオン交換膜法） (工業的製法)



10.2.3 反応

- 塩酸と水酸化ナトリウム

$$\text{HCl} + \text{NaOH} \longrightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$$
- 塩素と水酸化ナトリウム

$$2 \text{NaOH} + \text{Cl}_2 \longrightarrow \text{NaCl} + \text{NaClO} + \text{H}_2\text{O}$$
- 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム

$$\text{SO}_2 + 2 \text{NaOH} \longrightarrow \text{Na}_2\text{SO}_3 + \text{H}_2\text{O}$$
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

$$\text{ZnO} + 2 \text{NaOH} + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{Na}_2[\text{Zn}(\text{OH})_4]$$
- 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

$$2 \text{NaOH} + \text{CO}_2 \longrightarrow \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{H}_2\text{O}$$

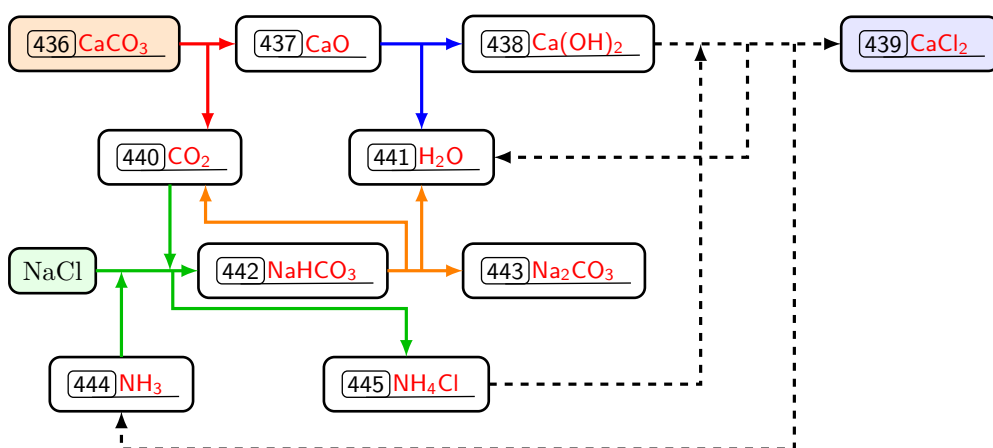
10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.3.1 性質

名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム
化学式	(426) Na_2CO_3	(427) NaHCO_3
色	(428)白 色	(429)白 色
融点	850°C	(430)熱分解
液性	(431)塩基 性	(432)弱塩基 性
用途	(433)ガラス や石鹼の原料	胃腸薬・ふくらし粉

10.3.2 製法

(434)アンモニアソーダ法 (435)ソルベール法 (工業的製法)



- (446)炭酸カルシウム の (447)熱分解
 $\text{CaCO}_3 \longrightarrow \text{CaO} + \text{CO}_2$
- (448)酸化カルシウム と (449)水
 $\text{CaO} + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{Ca(OH)}_2$
- (450)塩化ナトリウム水溶液 に (451)アンモニア を溶解させてから、(452)二酸化炭素 を溶解
 $\text{NaCl} + \text{NH}_3 + \text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{NH}_4\text{Cl} + \text{NaHCO}_3 \downarrow$
- (453)炭酸水素ナトリウム の (454)熱分解
 $2\text{NaHCO}_3 \longrightarrow \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{H}_2\text{O} + \text{CO}_2 \uparrow$
- (455)水酸化カルシウム と (456)塩化アンモニウム
 $2\text{NH}_4\text{Cl} + \text{Ca(OH)}_2 \longrightarrow \text{CaCl}_2 + 2\text{NH}_3 \uparrow + 2\text{H}_2\text{O}$

10.3.3 反応

- Na_2CO_3 (457) $\text{CO}_3^{2-} + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{HCO}_3^- + \text{OH}^-$ $K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$
- NaHCO_3
 - (458) $\text{HCO}_3^- + \text{H}^+ \rightleftharpoons \text{CO}_3^{2-}$ $K_1 = 5.6 \times 10^{-11}$
 - (459) $\text{HCO}_3^- + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{CO}_2 + \text{OH}^- + \text{H}_2\text{O}$ $K_2 = 2.3 \times 10^{-8}$

112 族元素

11.1 単体

11.1.1 性質

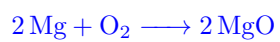
化学式	(460)Be	(461)Mg	(462)Ca	(463)Sr	(464)Ba
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C
密度 (g/cm ³)	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59
(465)還元力	小 大				
水との反応	(466)反応しない	(467)熱水 と反応	(468)冷水 と反応	(469)冷水 と反応	(470)冷水 と反応
M(OH) ₂ の水溶性	(471)難溶 性 (472)弱塩基 性)		(473)可溶 性 (474)強塩基 性)		
難溶性の塩	(475)MCO ₃		(476)MCO ₃ , MSO ₄		
炎色反応	(477)示さない	(478)示さない	(479)橙赤	(480)紅	(481)黄緑
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター

11.1.2 製法

塩化物の 482 熔融塩電解 工業的製法

11.1.3 反応

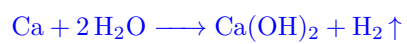
- マグネシウムの燃焼



- マグネシウムと二酸化炭素



- カルシウムと水



第 III 部 APPENDIX

12 気体の乾燥剤

固体の乾燥剤は〔483〕U字管につめて、液体の乾燥剤は〔484〕洗気瓶に入れて使用。

性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外（不適）
酸性	〔485〕 <u>十酸化四リン</u>	〔486〕 <u>P_4O_{10}</u>	酸性・中性	塩基性の気体（〔487〕 <u>NH_3</u> ）
	〔488〕 <u>濃硫酸</u>	〔489〕 <u>H_2SO_4</u>		+〔490〕 <u>H_2S</u> （〔491〕 <u>還元剤</u> ）
中性	〔492〕 <u>塩化カルシウム</u>	〔493〕 <u>$CaCl_2$</u>	ほとんど全て	〔494〕 <u>NH_3</u>
	〔495〕 <u>シリカゲル</u>	〔496〕 <u>$SiO_2 \cdot nH_2O$</u>		特になし
塩基性	〔497〕 <u>酸化カルシウム</u>	〔498〕 <u>CaO</u>	中性・塩基性	酸性の気体
	〔499〕 <u>ソーダ石灰</u>	〔500〕 <u>CaO と $NaOH$</u>		〔501〕 <u>Cl_2</u> , 〔502〕 <u>HCl</u> , 〔503〕 <u>H_2S</u> , 〔504〕 <u>SO_2</u> , 〔505〕 <u>CO_2</u> , 〔506〕 <u>NO</u>